

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	横田 美紗子	学校名	千葉県野田市立柳沢小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	5年生2クラス（45名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年9月 ～ 2019年12月（8時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な学習の時間、道徳、社会科、家庭科		
2. 単元名：心と心で、つながる未来へ		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標		
<p>授業テーマ 「世界と自分たちのつながりを知り、考え、行動しよう」</p> <p>単元目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアや他の国々の文化や習慣、価値観などを知り、世界の多様性を理解するとともに、様々な考え方や価値観の違いを認め合い、尊重しようとする態度を養う。 ・ザンビアや他の国々と日本の繋がりを知ることで、世界が抱えている様々な問題を自分ごととして捉え、SDGsを通して自分の生活を振り返り、自分にできることを考える。 <p>関連する学習指導要領上の目標</p> <p>総合的な学習の時間</p> <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。</p> <p>道徳</p> <p>C-18 国際理解、国際親善</p> <p>他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。</p> <p>社会科</p> <p>社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p>家庭科</p> <p>日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p>		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	世界の多様性や日本と世界の繋がり、世界の抱える問題への理解を深めている。
	②思考力、判断力、表現力等	世界の抱える問題において、学習して理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。
	③学びに向かう力、人間性等	進んで世界の抱える問題を自分ごととして捉え、学習の見通しをもって、自分にできることを考えようとしている。
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）	<p>【単元設定の理由】</p> <p>急速にグローバル化が進む現代社会において、広い視野とともに多様な異文化の生活・習慣・価値観などの「違い」を「違い」として認識していく態度や相互に共通している点を見つけていく態度、互いを尊重し合う態度を育成していくことが重要とされている。また、地球では今、温暖化や自然環境の破壊や汚染、経済格差など様々な問題が複雑に絡み合っており、世界の人々が協力して問題を解決していくことが必要とされている。そのため、未来を担う子ども達が同じ地球に生きる人として、世界の抱える問題を自分ごととして捉え、行動していくことは非常に重要だと考える。そして、本単元を通して知った世界の現状や感じたり考えたりしたことを、広い視野で世界を見ていく目を養うことやこれからの自分の生き方を考える上での一助としたり、国際理解の一步として生かしたりして欲しいと考え、本単元を設定した。</p>	

【単元の意義】

子ども達がESDの考え方を味わうためには、1つの教科の学びだけでは難しい。様々な教科を関連づけながら学習し、教育活動全体を通して子ども達にESDの考え方を味わわせることで、継続的な学びのプロセスを構築することにつながると考える。

そこで、本単元では総合的な学習の時間「心と心で、つながる未来へ」の単元を中心に、教科横断的な実践の中で「日本と世界の繋がり」を知り、「世界の抱える問題」を自分ごととして考え、身近な生活と結びつけて学習していく。各教科の学習内容を扱いながら、そこに関連する国際理解的要素を取り入れることで、より具体的な場面において児童がどのようなことができるのかといった、実際的な取り組みにつなげることができると考える。

【児童観】

本学年の児童は、4月に社会科「世界の中の国土」という単元で地球儀や地図帳を活用して、世界の大陸や海洋、主な国々の名称や位置について学習している。また、外国語活動では、ALTとのコミュニケーションから異文化に触れたり、「行ってみたい国や地域」の単元で様々な国の国旗や食べ物、観光地について学んだりしてきた。これらの学習を通して世界に関心をもち、自主学習でたくさんの国旗を描いてきたり、気になる国について調べてきたりするなど、自ら学びを深めている児童もいる。

また、近年は地球温暖化や海洋プラスチックなど環境問題に関する情報をテレビやインターネットで目にする機会が多くなった。これらの問題について知っている児童は多い一方で、そのことについて深く考えたり、調べたりしたことがあるという児童はほとんどいなかった。つまり、世界で起きている様々な問題はどこか遠くの国の出来事であり、自分たちとは関係のないものだと考えている児童も多いのではないだろうか。

これらのことから、本単元では世界の抱える問題についてSDGsを通して学ぶことで、自分たちの身近な問題へと落とし込んでいき、それらを解決する行動が世界を変える一歩につながるということを感じさせたい。

【指導観】

本単元の前半では、ザンビアや世界の現状について知ることで興味関心を高めるとともに、世界の子ども達にも自分と共有できる多くの感性や思いがあることに気付かせることで、世界をより身近なものとして感じられるようにしたい。そして、単元の後半では各教科と関連させながら、より具体的に日本と世界の繋がりや問題について知り、持続可能な社会の実現のために自分たちができることを考えさせていく。

一人一人が「知る」「考える」ことを大切にしたい授業展開を意識していくとともに、グループやクラスで話し合う機会を多くもつことで考えを共有し合い、多面的・多角的に世界について考えることができるようにしていきたい。

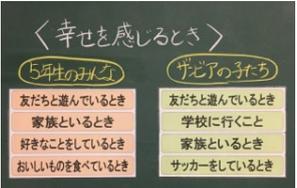
6. 単元計画（全8時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
朝の会	「今日のザンビア」	ザンビアの文化や日本との繋がり、日本の国際協力などに興味・関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 一日1回、ザンビアの写真や映像、基本情報などを紹介する。 ザンビアの概要を知り、現地の様子や人々の暮らし、日本との繋がり、日本の国際協力について知る。 日本との共通点や相違点を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ザンビアの写真や映像、民芸品など 青年海外協力隊の隊員やシニアボランティアの方々のインタビュー PPT資料1
1	総合的な学習の時間「SDGsってなんだろう？」	世界が抱える問題とSDGsの理念やゴール（目標）との繋がりに気付き、単元のゴールを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む世界が幸せで豊かに続いていくために、解決しなければいけない問題を考える。 SDGsとは何かを知り、自分たちが考えた問題とどれが関係しているか考える。 「よりよい未来」へのイメージを広げ、今後の学習への見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> PPT資料2 ワークシート1 SDGsのロゴ

2	総合的な学習の時間 「今、世界は？」 ～世界がもし24人の 5年1組だったら～	世界の「多様性」と「貧 富の格差」を体感しなが ら、世界の現状への理解 を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・役割りカードを使って、世界の現実をシ ミュレーションする（人口や性別、識字 率、貧富の格差など）。 ・世界には、多様な言語や文化をもつ人々 が住んでおり、そこには大きな貧富の格 差があることを知り、SDGs との関連を 考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT 資料 3 ・役割りカード ・ペットボトル ・水、コップ ・SDGs のロゴ
3 本時	道徳科 「同じ空の下で」	他国の人々や異文化 の中に、自分と共有でき る多くの感性や思いがあ ることに気付き、それ を大切にしながら国際 理解に努めようとする 心情を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちとザンビアの子どもたちの「幸 せな気持ちになるとき」を比べる。 ・ザンビアの学校やストリートチルド レンの写真や動画から、自分たちとの「違 い」を知る。 ・多様性や同一性について考えたことを もとに、これからの世界との関わり方 について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPT 資料 4 ・ワークシート 2 ・シムカレ初等学校、 モンゼタウンデイ 中等学校でのアン ケート、写真 ・ストリートチルド レンの写真、動画 ・ンサンサ孤児院の歌
4	社会科 「これからの 食料生産と わたしたち」	日本の食料生産の問 題について理解し、こ れからの食料生産につ いて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアと日本の食事を比較する。 ・日本の食料生産が抱える問題点や変化 をグラフから読み取り、SDGs と関連さ せて考える。 ・コラム「日本の食料事情と世界の繋が り」を読み、食料の輸入が多いとどのよ うな良い点や悪い点があるかグルー プで考え、全体で共有する。 ・これからの食料生産について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアの農家での 食事の写真 ・食料自給率のグラフ ・SDGs のロゴ
5	家庭科 「ものを生かす 工夫をしよう」	日本では他の国と比 べ食材の包装が過剰で あること、また3Rで きるごみも多いこと に気付き、自分たちに できることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアや他の国々のごみの現状につ いて知り、SDGs との関連を考える。 ・日本と他国の食卓写真から、ごみリス トを作り、気付いたことを話し合う。 ・3Rについて知り、リストのごみを3R に分類して、気付いたことや考えたこ とを話し合い、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マテロ病院のごみ捨 て場の写真 ・ザンビアのごみ処理 場の動画、写真 ・SDGs のロゴ ・ワークシート 3
6 7	社会科 「これからの 工業生産と わたしたち」	日本の工業の課題に ついて知り、持続可能 な社会を実現する「夢 の工業製品」を考え る。	<ul style="list-style-type: none"> ・『モノはどこからきているの？』カード ゲームで、製品とその原材料を当てる。 ・原材料がどこの国からきているか世界 地図に示し、世界との繋がりを知る。 ・燃料や原料、機械類、食料品の多くは、 輸入に頼っていることを知る。 ・持続可能な社会を実現するために必要 なことをもとに、SDGs と関連させた 「夢の工業製品」を考え、お互いに紹 介し合い、それぞれの思いを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『モノはどこからき ているの？』カード ゲーム ・世界地図 ・SDGs シール ・ワークシート 4
8	総合的な学習の時間 「自分たちが できること」	これまで学習してき たことを踏まえて、世 界が抱える問題の解決 に向けて、自分やみん なが取り組めることを 考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを比較したり、関連づけ たり総合したりして、持続可能な社会 の実現のために、自分たちができるこ とをグループで考え、全体で共有する。 ・「一人で」「みんなで」「継続して」 「新しい技術を開発する」などの観 点をもって取り組む。 ・SDGs と結び付けて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs シール

7. 本時の展開 (3 時間目)

本時のねらい：他国の人々や異文化の中に、自分と共有できる多くの感性や思いがあることに気づき、それを大切にしながら国際理解に努めようとする心情を育てる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	1 様々な国の言葉や文化について知っていることを出し合い、自分と世界の子どもたちは同じかを考える	・自分たちが経験したり、学習したりしたことを思い出させる。	ワークシート
展開 (30分)	<p>2 教材「同じ空の下で」についての話し合い ・2枚の写真から、どんな気持ちか考える。</p>  <p>・自分たちとザンビアの子どもたちの「幸せを感じる時」を比べる。</p> <p>・学校やストリートチルドレンの写真、動画から、自分たちとの「違い」を知る。</p>  <p>◎自分と世界の子ども達は「同じ」でしょうか。 ・グループで自分の考えを伝え合う。 ・全体でみんなの考えを共有する。</p> <p>3 価値の主體的自覚 ・これから世界の子ども達とどのような関わり方をしていきたいかを考え、全体で共有する。</p> <p>4 ザンビアの子ども達の「幸せを感じる時」のスライドショーを観る</p> <p>5 これまでの学習を振り返り、自分と世界の子ども達は同じかを考える</p> <p>6 JICAの方々から子ども達へのメッセージ</p>	<p>・似たような経験があるかを補助発問し、世界中の人々に共通した感性や思いがあることに気付くようにする。</p>  <p>・この子達は、どんな気持ちで毎日を過ごしていると思うか補助発問する。 ・日本とザンビアを比べて世界の現状を知ること、自分ではどうしようもない環境で暮らさざるを得ない子どもがいること、どんな状況にあっても同じ思いや感性をもっていることに気付かせる。</p> <p>・ザンビアの子ども達にどのようなことを伝えたいかなども良いことを伝える。</p> <p>・笑顔の子ども達の写真を紹介することで、同一性を感じさせる。</p> 	<p>写真</p> <p>「幸せを感じる時」一覧</p> <p>写真 動画 ストリートチルドレンの言葉</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>スライド</p> <p>ワークシート</p>

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

他国の人々や異文化の中に、自分と共有できる多くの感性や思いがあることに気づき、これから世界の人々とどのように関わっていきたいかを考えることができる。(ワークシート・発言)

9. 学習方法及び外部との連携

- グループ活動を数多く取り入れ、それぞれの思いや考えを出し合うことで、様々な見方・考え方を知るだけでなく、多様な価値観を受け入れ、さらに学びを深めていくことができるようにする。
- 道徳の授業の最後に、JICAの方々から子ども達に向けてのメッセージをいただいた。これにより、担任だけでは伝えきれない「国際理解」への重要性がより伝わると考えられる。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

○校内職員への研修報告及び国際コーナーの設置

校内研修で教師海外研修報告会を実施し、自分自身が見てきたザンビアのことや、SDGsの紹介をした。また、子どもや保護者や来校者の方にも目につくよう教室だけでなく昇降口前にもザンビアを中心とした国際コーナーを設置し、気軽に資料を見たり、本や民芸品などを手にとったりしてもらえるようにした。

○授業公開及び出前講座の取材

本校は今年度、市指定人権教育研究校として研究に取り組んでいる。授業公開では、本単元の道徳「同じ空の下で」の実践を発表し、他校の先生にも参観していただいた。

また、2月にはJICA出前講座で5年生の子どもたちが国際理解・協力について学ぶ機会を設定している。読売新聞社の方にも取材いただき、地域のコミュニティ紙に掲載される予定となっており、広く地域の方々にも知っていただける機会となることを願っている。



【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>毎日、朝の会で行っていた『今日のザンビア』で子ども達にザンビアの写真を見せると、どうしても「違い」に注目しがちだった。子ども達には「違い」だけを感じるのではなく、「似ている」「同じ」という部分にも目を向けてもらえるよう、どのような写真や映像を紹介していくのかに悩んだ。ザンビアと日本の繋がりやザンビアの様々な面を感じ取ってもらえるようなものを選ぶよう心がけた。</p> <p>学年で共通の単元展開をしていく上で、他の先生にSDGsに関することや各教科の授業プランを理解してもらうための時間を多く確保する必要があった。実際に現地を見聞きした自分と、それを聞いて授業を実践していただく先生との差を埋めることが最も重要視した点だった。</p>	
<p>12. 改善点</p>	<p>世界の課題を自分ごととして捉え、自分たちができることについての提案を学級内で行ったが、より広く知ってもらうためには、授業参観で実践したり、学校全体に向けて提案したりするような機会を設けられると良かった。</p> <p>また、今回は教科横断的に行ったため、各教科の単元の都合上1つ1つの授業間隔が空いてしまうことがあった。どの授業においてもSDGsを通して学ぶことで関連していることを意識させたかったが、繋がりを感じられない児童も見られた。今後も継続して国際教育を実践していくために、年間を見通したでのカリキュラム・マネジメントが重要である。</p>	
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>多くの先生にも実践してもらえるよう、通常の授業に+αの授業をするのではなく、教科書の内容を少し膨らませた授業案を計画した。社会科や家庭科の授業で世界の問題と関連させることで、子ども達も関心をもち、より深い理解につながったと考えられる。</p> <p>道徳の授業実践では、子ども達には自分たちと「同じ」→「違う」→「同じ」と感じられるような教材提示を行なった。その中で、一人一人が同一性と多様性を感じながら「自分と世界の子どもは同じなのか」という問いを繰り返されるたびに、心が揺さぶられる様子がワークシートから見て取れた。また、ありのままを偽りなく捉えて伝えることができる写真や映像は、言葉以上の説得力を帯びることを実感した授業でもあった。</p> <p>また、子ども達は授業後に世界や国際協力、SDGsなど様々なことに関心をもち始め、自主学習で調べてきたり、TVや新聞でSDGsやザンビアのことが出ると報告したりしてくれる機会が増えた。休み時間には、SDGsの本を読んだり、SDGsすごろくで遊んだりしている姿も多々見られた。また、同僚の先生にも関心の輪が広がり、SDGsの書籍を紹介してくれる方やザンビアの新聞記事をもってきてくれる方が出てきたことも一つの成果だと感じている。</p>	<p>道徳の授業でのある児童の心の動き</p>
<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>【道徳の授業での振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本には日本にしかないもの、ザンビアにはザンビアにしかないものがそれぞれある。お互いにそういったものを共有していきたい。 ・自分たちの生活とは全く違うと思ったけど、幸せになる時や学校に行きたいという思いは日本もザンビアも同じだと思った。どの国でも、みんなが笑顔でいる時が一番幸せだと思った。 ・違うところもあれば、同じところもあるということがわかった。違うところもたくさんあるけれど、ザンビアのことをもっと知りたいし、日本のこともザンビアの人に知ってほしい。 ・最初は自分と世界の子は全然違うと思っていた。でも授業を通して、私たちは同じ地球に住んでいるんだから、積極的に関わって協力したり、支え合ったりしていきたいと思った。 	

【各教科のノートやワークシート】

調べてみて、いろいろな国の人々が協力している。日本に必要な物や、外国に必要な物をおきながらやっていることがわかる。

「3R」はSDGsとも関わりがあり、自分たちが気づいて目標へ近づけるかもしれないことがわかった。これからは分別したり、リサイクルショップへ出してリサイクルして、目標に近づきたい。

たてものは冷凍し服などはあけるかリメイクする。3Rを頭に残しておいてSDGsを目標に、1人1人がきをつけて分別や資源を大切にね。

【単元を終えての振り返り】

- ・自分たちが協力することで、世界はもっとよくなることがわかった。ザンビアや世界の人たちがどんな時も「幸せ」と思うような環境を作りたい。
- ・世界には色々な人たちがいる、みんながみんな平等に暮らしているわけではないということがわかった。みんなが幸せに暮らしていけるよう、身近なことから行動していけるといいと思う。
- ・SDGsや世界の問題を知ることで、学校や家で色々なことが気になるようになった。給食の牛乳のストローを無くしてコップを持って来ればプラスチックは減るんじゃないかとか、スーパーでもビニールがこんなに必要なの？とか、当たり前だと思っていたことに疑問をもつようになった。これからももっと色々なことを知って、家族に教えてあげたいと思った。



15. 授業者による自由記述

私たちが生きるこの地球上で、今この瞬間も「不条理」にさらされている人たちがいる。しかし、そのことを気に留めていなくても日本では幸せに生きていける。では、日本は国際協力をしなくてよいのか。漠然とした疑問が私の中にはあった。

今回の研修で実際にザンビアに足を運び、現地の人と共に同じ時を過ごし、同じ空気を吸い、同じ風景を見て、同じ音を聴いた。そうしていると、ザンビアの人々と心の距離はどんどん近づいていくような気がした。机も椅子もなく硬い床で座って受ける授業は辛いと話す女の子。親もなく、住む場所もないストリートチルドレンの男の子。普段は日本で教師として生活し、恵まれた環境で暮らしているからこそ、彼らと直接出会う中で「どうして世界はこんなにも不条理なのか」と思わざるをえなかった。そして、心が近づけば近づくほど、彼らに何もできない自分の無力さを痛感した。「隣人を愛せよ」という言葉があるが、世界を身近に感じることで、それこそが国際協力の原点なのだとすることを学んだ。

また、今回の研修を通して、「知る」ことの大切さと「無関心」であることの恐ろしさを改めて感じた。知らなければ、考えることもなく、伝えることも行動することもできなかった。逆に、知ることで世界は広がり、繋がるのだということを実感した。だからこそ、今回の授業実践がゴールではなく、持続可能な社会をつかっていくために考え、行動し続けることが教師としての私の使命だと思っている。

ザンビアの教員養成校の校長先生との対談で、“Possibilities is open up through education.”という言葉がとても印象的だった。国は違えど思いは同じ。これからも教育に携わる者として、この校長先生の言葉を胸に、未来の担い手である子ども達の可能性を広げていきたい。

参考資料：開発教育協会『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第5版』（2016）
 佐藤真久『未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK』宣伝会議（2019）
 手島利夫『学校発・ESDの学び』教育出版（2017）



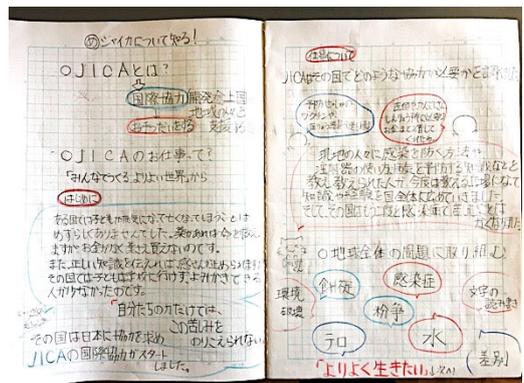
総合的な学習の時間
「SDGsってなんだろう？」



社会科「モノはどこからきているの？」
カードゲームの様子



SDGsのアイコン（黒板掲示用）



児童の自主学習ノート
今回のめあては「JICAについて知る！」